

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 4月 4日

事業所名 佐賀整肢学園子ども発達医療センター 放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1			
	2	職員の配置数は適切である	4	3			在宅支援課全体で、職員数や業務を見直し安心安全にご提供いただけるように検討していきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1		雨天時でも楽しめるように、運動感覚室を整備していません。	安心安全に利用していただけるように、定期的に設備状況を見直していきます。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	1	1		様々な形(勤務時間)で働く職員が参画できるように、体制を整備します。その意義が浸透するような説明に努めます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	1		様々な形(勤務時間)で働く職員が参画できるように、体制を整備します。その意義が浸透するような説明に努めます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4	1		第三者による外部評価はおこなっていません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1		オンライン、DVD、オンデマンド研修等を通して資質の向上に努めています。	
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		朝ミーティングにて、本人家族について情報共有しニーズの明確化し検討を図っています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	4	2		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		季節を感じる取り組みや、個々に合わせた活動を心がけています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1		季節を感じる取り組みや、個々に合わせた活動を心がけています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	2			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		朝ミーティングにて、本人家族について情報共有しニーズの明確化し検討を図っています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		1		様々な形(勤務時間)で働く職員が参画できるように、調整していきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1			様々な形(勤務時間)で働く職員が参画できるように、調整していきます。
	18	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	2			様々な形(勤務時間)で働く職員が参画できるように、調整していきます。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	4			様々な形(勤務時間)で働く職員が参画できるように、調整していきます。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	1			様々な形(勤務時間)で働く職員が参画できるように、調整していきます。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	1		適宜、状況にあわせて情報共有しています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2		適宜、状況にあわせて情報共有しています。	情報共有するケースもあれば、相談員・学校との共有で事足りる場合がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2		適宜、状況にあわせて情報共有しています。	学校からの状況提供が主となっている。必要にあわせて対応している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	6		コロナ等の感染症の影響により実施できていません。活動の機会を模索していきます。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している		5	2		佐賀中部地区自立支援協議会に児童部会がない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		1		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2	1		佐賀整肢学園こども発達医療センターとして、実施している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1			様々な形(勤務時間)で働く職員が参画できるように、調整していきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	2	4		コロナ等の感染症の影響により実施できていません。活動の機会を模索していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	2		クローバー通信にて情報発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	7				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	3		佐賀整肢学園こども発達医療センターとして、地域公開講座など地域に開かれた事業運営を実施していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			クローバー通信にて情報発信している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			毎月、委員会を行うと共に、スタッフへの研修もおこなっています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1		定期的に、委員会を行いスタッフへの研修もおこなっています。毎年セルフチェックも行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			生活する上で必要な身体拘束については、同意書をいただいています。利用日に必ず確認(チェック)するようにしています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			センター全体で、ふかえりと共有を図っています。	